

是枝裕和監督『歩いてても 歩いて
も』'08

にみる日本の「家」：ジェンダー論講座の授業よ
り

名古屋大学国際言語文化研究科
星野幸代

ねらい(目的)

- ①日本の伝統的「家」 或いはジェンダーについて
- ②その他、日本文化について

留学生（大陸から10名、台湾から1名）

⇒理解する

日本人学生3名、大陸生まれで日本育ちの学生1名

⇒解説を試みる。

ここでいうジェンダーとは

日本社会における男性規範、女性規範
(男、女はこうあるべきだ)

鑑賞中の問いかけより

- ①冒頭の二人の女性の関係はどの場面で分るか。
- ②「他人(ひと)のお古(ふる)をさ」：誰のことを指すか。
- ③冷たいのよ：誰のどういうところが冷たいのか。
- ④「せっかく大学まで行かせたのに三年しか働かなかったじゃない」：娘は、働くのを辞めた後、何をしたと考えられるか

鑑賞中の問いかけ：

日本現代文化に関して

⑤卒業式で制服のボタンを取られるとは。

⑥娘婿と子どもたちはなぜ後から

「お祖母（ばあ）ちゃん家（ち）」へ来たか。

⑦お寿司が回る

小(ちい)さっ。

- 主に若者の言葉で、形容詞の「い」→「っ」にし、強調する。

例、「早(はや)っ。」

「遅(おそ)っ。」

「ヤベっ、この肉**美味**(うま)っ。」

⑧誰の何が小さいということを
言っているか。

答えの例：「お祖父ちゃん」の度量が小さい
ということ。

ジェンダー、伝統的「家」の考え方が表れている セリフ、場面

- お祖父さんは「コンビニの袋を提げているのを見られたくない」。
- 女性（だけ）が炊事をしている \ 片付けをする
- 玄関に先に入るのが男性。
- 子を迎えに出るのが母
- 祖父が寡黙で愛想がない
- 「何も他人のお古をさ」 双方が初婚同士であるのが「ふつう」の家族

留学生の感想より

- 日本の女性には一度も働いたことがない人がいる
- 親が大人になった子どもからお金（お小遣い）をもらうのは当たり前ではない。

この映画と同様に、中国、台湾の映画で現代の
ジェンダー、「家」が分かる映画は？
⇒これといった答えなし。

課題



ご静聴ありがとうございました